「形」から「型」へ、カタ表記の変遷

大正末～昭和初期 この時代は、日本語としては「形」が武道用語としては標準的だった	1920年代 まだ唐手と呼ばれた時代、古流武術（柔術、剣術）でも「形」が一般的で、唐手も「形」と表記された。
	1935年（昭和10年） 船越義珍が「空手道教範」を出版され、本文で「形」の表記が多用される。
昭和中期 この時代は「形」が一般語として広く使われ、空手界でも混在していた	1940年代 学校教育で空手が普及し、体育教師が「形」の表記を使い定着し、道場でも使うようになる。
	1950～1960年代 この時期に出版された教本の多くで「形」が使用され、「形稽古」という表記が一般化する。
昭和後期 競技としての空手を整備する過程で「型」が標準表記となる	1970年代 日本空手道連盟が国際的に競技規定を整備する流れで、「型（KATA）」が正式用語に定められる。
	1982年（昭和57年） 「空手道教範（第一指定形」を出版する。タイトルに「形」を使用しているが、これは昭和期の表記慣習を踏襲したもの。
	昭和末期～平成初期 競技空手では完全に「型」表記が標準化するが、出版業界では昭和の名残で「形」表記が残った。